

平成27年1月12日に行われた成人式での市長祝辞を紹介します。

本日ここに平成27年長久手市成人式を挙行するにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

新成人の皆さん、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。ご家族のみなさん、おめでとうございます。

また、市議会議長川合保生様はじめ、ご来賓のみなさまには、ご多忙の折ご臨席を賜り、ありがとうございます。



本市の人口は、皆さんが生まれた平成6年、7年には約34,000人でしたが、現在は54,000人を超えています。この20年でまちは大きく変わり、若いまち、住みやすいまちという評価をいただく一方で、地域のお付き合いが減ってしまいました。みんなが住み慣れた地域で、支え合いながら暮らし続けられる長久手にするには、皆さん方、若い人が地域に関心を持ち、そして同じまちに暮らす人同士が、あいさつをしたり、声掛けをしたりする勇気を持つことが必要だと思っています。

さて、1月31日（土曜日）に、ここ文化の家で、映画「降りてゆく生き方」が上映されます。この映画は、映画館やDVDで見ることができません。「他の人にも見てほしい」と思う人たちの力で、製作から5年経った今も、全国各地で上映されている映画です。私もこの映画を見て、感動し、市政に携わろうと思いました。

この映画のモデルとなった方の一人は、青森県弘前市で、世界で初めて肥料も農薬も使わない「奇跡のりんご」と呼ばれるりんごの栽培に成功した木村秋則さんです。少し前に阿部サダヲさん主演で映画にもなりましたが、みなさんはご存知ですか？

りんごは、ほかの農作物と違い、農薬を使用しないと全滅してしまう可能性が高い作物です。木村さんは、奥さんが農薬にアレルギーだったため、無農薬のりんごを作ろうと挑戦を始めましたが、葉にも実にも虫がつき、家族総出で、箸で虫を取ったり、木にわさびを塗ったりの試行錯誤を繰り返しました。

しかし、何年経っても実がならない。10年近く収入もなく、困った木村さんは山

で自殺を図りますが、枝が折れ、幸いにも自殺に失敗しました。そのとき、寝転んで山の中を見渡すと、人の手が加わっていない山には実が実り、土はフカフカで温かかったそうです。そこで、「そうか、草も刈らない、人の手を加えないことがいいんだ」と自然農法にたどりつくのです。

すると次第にりんご農園には、虫を食べてくれる鳥などが来るようになり、何年もかかったけれど、「奇跡のりんご」が実ったのです。

木村さんは、「害虫という虫はいない。不要な虫はいない。あらゆる虫がいて、自然は回っている。みんな必要なんだ」とおっしゃっていました。

これは農業での例えですが、人間に置き換えてみても、同じことが言えます。

これまでの社会では、効率的で早くやることや、成果をあげることが求められていました。これからの誰も経験したことのない、人口が減っていく社会では、価値観がガラリと変わり、時間がかかっても、すべてを受け入れていくことが求められる社会に変わっていくと思います。その人ならでは、その地域ならではの個性が評価され、生きとし生けるもの、あらゆる人々が必要とされる時代になっていくのです。

皆さんも、今までの価値観、モノサシで自分を評価することなく、「みんな必要とされている」「自分は必要とされている」と自信を持ってほしいと思います。

そんな時代、そんな社会を、日本中の人々が、今、つくろうとしています。私は、2050年の長久手市の姿を今から描きたいと考えています。若い皆さんが参加できる仕組みづくりを計画しています。

みなさんのふるさと長久手市が、みなさんの子ども、孫の代まで、「長久手市だからこそ住みたい」と思う個性ある自慢のまちに、一緒にしていきませんか。

1月31日の映画「降りてゆく生き方」をみなさんにも見ていただきたいと思います。きっと、若いみなさんにだからこそ、心に響くことも多いと思います。ぜひ、私に映画を見た感想を聞かせてください。

おわりに、新成人のみなさんの輝かしい未来に幸多きことを祈念してお祝いのことばといたします。